

人生ハンド仏句

第8号

H. 14. 11. 1
(毎月1日発行)

編集・発行
玉蓮山
真成寺
編集部

同じなのです。

私たちが安心を
得る一番確かな

方法とは？

住職 谷川 寛俊

人が一番安心できる音って何？

泣きやまない赤ちゃんにお母さんの心音を聞かせると、ピタリと泣きやんで機嫌が良くなったり、気持ちよさそうに眠ったりします。これは、胎児の時ずっと聞いていた懐かしい音であり、一番安心できる音だからなのでしょう。

お母さんの胸に抱かれると心地よさそうにするのも同じ理由から。お

母さん自身もそれが分っているのか、心臓のある左胸に赤ちゃんを抱く割合が多いようです。

世界中で聞かれる太鼓の音というのも、動物が走るひづめの音が、人間の心音に似ているそうです。ある実験によると、メトロノームを好きないようにセットさせると、大半の人が、一分間に五〇〜九〇の位置に目を合わせるといいます。この数字はまさに、人間の一分間の心拍数と

それでは、私達の安心とは、何でしょう？

◎ 第一には、「死にたくない、何時までも生きていたい」という常住不滅の生命を求めていること。

◎ 第二は、「安楽の生活がしたい、苦勞はしたくない」という物心両面の安定を求めていること。

◎ 第三は、「自主自由でありたい、他人の束縛は受けたくない」という自己の絶対性を求めていること。

◎ 第四は、「平安な楽土に住みたい、生命の財産に危険のあるところに住

みたくない」という自然と文化の条件が一致した理想世界を求めていることです。

しかし、これだけを願っても、そうそう実現できるものではありません。そこで私達のために日蓮大聖人が、正しい修行方法を、限らない智慧の眼と、限らない慈悲の心によって顕されたのが、南無妙法蓮華経のお題目であったのです。

この妙法蓮華経を自動車にたとえるならば、お題目がない法華経はハンドルがない車であり、どんなに外見とかエンジンが出来ていてもハンドルのない車は、全然使い道のない車なのです。全て備えた自動車を運転

するというのは、お題目を備えた法華経を生活の上に充分に生かすことなのです。そうして、この命がみなぎる世界の象徴である妙法蓮華経の五字に礼拝していく姿が南無妙法蓮華経の七字であり、南無妙法蓮華経と唱えていく所に法華経の生命が脈動してくるのです。それは象徴の本力が働いて行くからなのです。

お題目を唱える事は、仏様の全部の功德をそっくり頂戴し、仏様のお持ちになっっている幸福をまつすぐ私達の生活の上に与えられる事なのです。

では、お題目の心とはどんな心かといえますと「一心欲見仏、一心に

仏をみたてまつらんと欲す」という

心であります。どうかして仏様を見たいものだど一心に願う気持ち、思い詰める心が一心欲見仏の心であります。この気持ちを作る事がお題目を唱える先の用意でなくてはなりません。「では、そんなに仏様を恋慕するような気持ちにはすぐなれない」というような人もいるでしょう。そこで、仏様を恋慕する良い方法があります。それは、常不軽菩薩にあやかっていく事です。他を見たら何でも良いから拝んで行く。ほめて行く・拝んで行く気持ちになる。そのような修行を続けてまいりますと不思議につまらない人だと思っていた

相手の人が、仏様の子のように思えてきます。「本仏であるお釈迦様は、わが子に乳を飲ませる母親の姿そのままに、お題目の心音を私達に聞かせて下さっています。このお題目は生命の奥にある仏性に響き渡り、あたかも赤ちゃんが母の胸で安心を得て、安らかな気持ちになるように慈悲の光に包まれています。私たちがしっかりと慈悲のお題目に眼を向けないと何なりません。仏の子として生きる私達は、親の思いに答えられるように生きて行く中に、大安穩な世界を現実に顕すことが出来るのです。

南無妙法蓮華経

南無妙法蓮華経
南無妙法蓮華経